

# 貝藻くん NEWS

第9号 (2024年1月)



全国各地での貝藻くんの成果に関する最新事例を報告します。

## マダコの産卵場と藻場造成（広島県三原市）

広島県三原市の小佐木島地先では、2018年度以降継続して貝藻くんによる漁場造成に取り組んでいます。2023年11月に行った調査では、貝藻くん14基中5基でマダコの産卵が確認され、ホンダワラ類の幼体の着生が見られました。また、新たにワカメの種糸も貝藻くんに取り付けました。今後の藻場の形成が期待されています。



抱卵中のマダコ



マダコの卵



貝藻くんに隠れるマダコ



ホンダワラ類の幼体



ワカメ

アカモク

貝藻くん

来年春に期待される状況



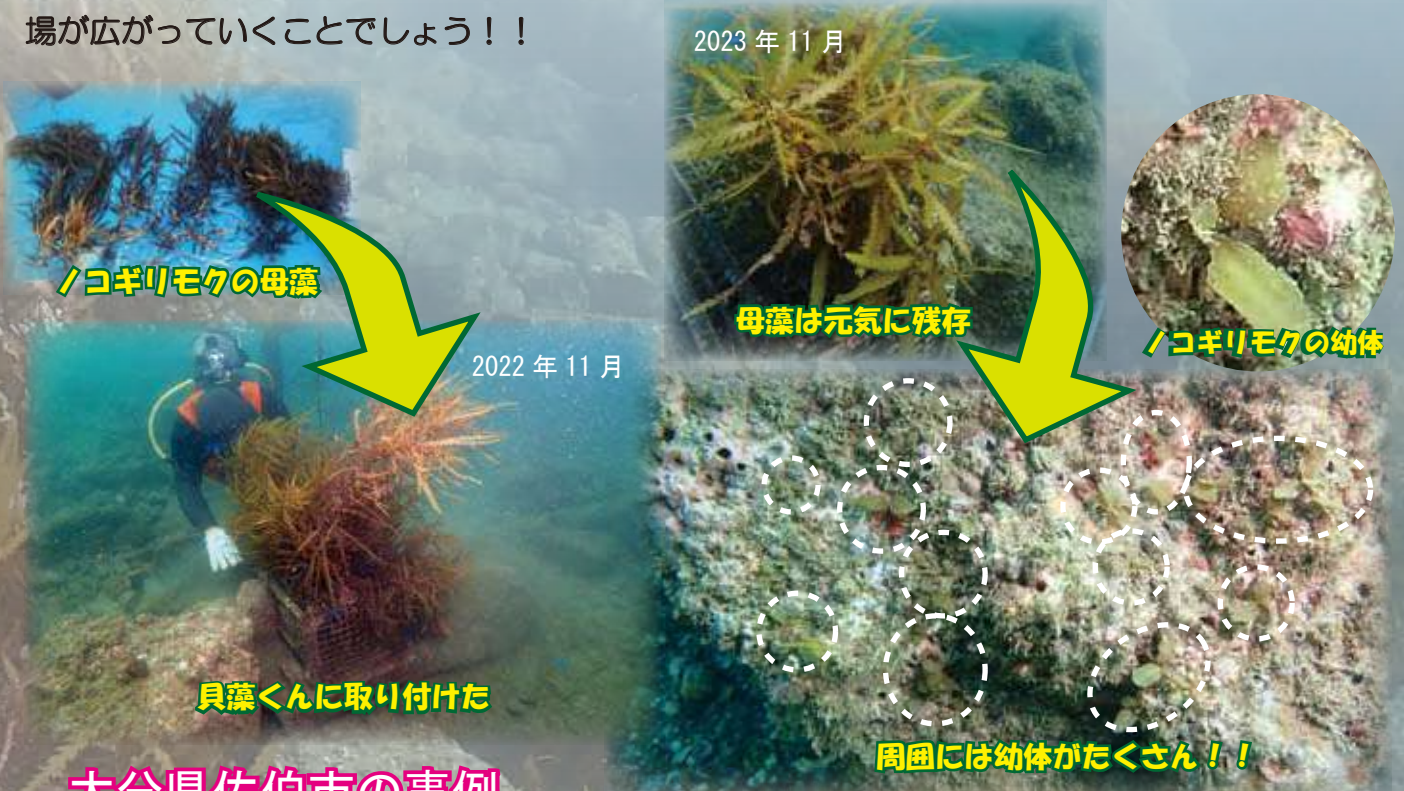
ワカメの種糸

貝藻くんにワカメの種糸を取り付けて設置

# 海藻移植による藻場保全の取り組み事例

## 山口県阿武町の事例

2022年11月にノコギリモクの母藻を貝藻くんに移植しました。2023年11月に実施した調査では、貝藻くん周囲に幼体の着生が多く見られるようになっていました。ノコギリモクは生長が遅いためまだ小さい状態ですが、年数の経過とともに生長し、藻場が広がっていくことでしょう！！



## 大分県佐伯市の事例

2022年11月にクロメの母藻および幼体を取り付けた貝藻くんが漁港内に設置されました。2023年6月の調査では、幼体の生長や新たな着生が見られるようになりました。今後は、天然採苗や中間育成の基地として活用されることとなります。

### 3パターンで試験

#### 防護ネット付

幼体 + 母藻

母藻のみ

幼体 + 母藻

2023年6月

幼体が大きく生長 (幼体 + 母藻)

新たな幼体が着生 (母藻のみ)

幼体が生長 (防護ネット付き)

- 今のところ、ネットで保護しなくてもクロメは生長 (食害が無い)。
- 写真は JF おおいた よりご提供いただきました。

# 香川県 マナマコ種苗放流・追跡調査

貝藻くん NEWS 第7号でも紹介した、香川県での貝藻くんを活用したナマコ種苗の放流調査を今年も実施しました。今回は、埋没防止と底質改善のためのシェルマットを含めて、全てダイバーなしでの施設設置と種苗放流を試みました。

その結果、多少の改善点はあるものの、ダイバーなしでの設置・放流が十分に可能であることが確認できました。また、これまでの調査結果から以下のことがわかりました。

- ①放流2年後程度までマナマコが生残・成長する
- ②貝藻くんとシェルマットの組み合わせで、効率よくマナマコが育つ
- ③マダコ、カサゴ、オニオコゼなどの増殖にも役に立つ



シェルマットの設置



貝藻くんの設置



貝藻くんへのナマコ放流



4カ月後に確認されたナマコ



いっぱいできました

オニオコゼ

メバル・カサゴ

## ダイバーなしでの種苗放流のイメージ



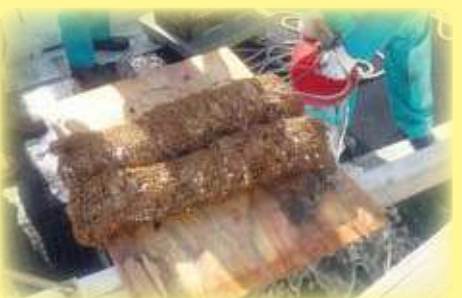
①ナマコ種苗



中空型の場合

②貝藻くに種苗を收容

貝藻くん上に撒き、ネットを被せても OK



③コンパネ上にシェルマット設置

下に台を置き、船べりと平行にする



④貝藻くんを載せて  
細いロープで固定



⑤ロープを使って  
ゆっくりと降ろす

ロープは回収できるように通すだけ



⑥正常に着底  
軟らかい海底でも沈みにくい

# 貝藻くんを活用した種苗放流の事例

これまでに全国各地で貝藻くんを活用した種苗放流が行われています。効果調査では、種苗放流が行われた各魚種が貝藻くんを生息場として利用している状況が観察され、放流の受け皿として効果を発揮していることが確認できました。

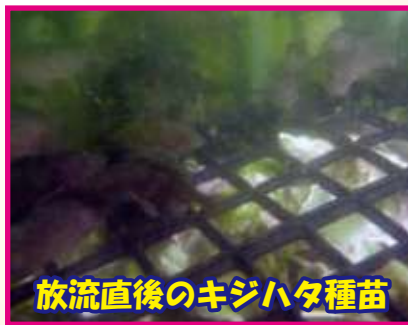
## キジハタ



▲山口県：放流1カ月後も効果を確認

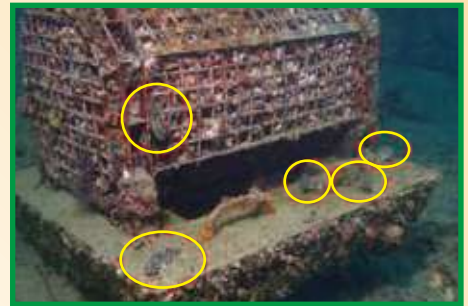


▲熊本県



▲香川県

## カサゴ



## マダイ



▲長崎県

## クエ



▲長崎県

## マナマコ



▲山形県：種苗が流れないようにネットで囲んで放流。2カ月後の調査では約80%の種苗が生残していた。



▲岩手県



▲石川県



▲広島県：放流4カ月後、貝藻くん1個あたり32個体の稚ナマコを確認